

「国語表現」シラバス

学科	商業科	学年	3 年	類型		組	5 組	単位数	4
使用教科書	国語表現（東京書籍）								
副教材等	大学入試に出た核心漢字 2500+語彙 1000（尚文出版） カラー版新国語便覧（第一学習社）								

1 学習の到達目標

①	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
②	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
③	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を5段階の評定に総括する。

知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。	(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)
思考・判断・表現	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり話しあったりして、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の考えをまとめ、深めている。	(6)(7)(8)(9)(10)(11)(12)
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、国語で伝え合う力や言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	(1)(2)(3)(4)(5)
評価方法	主な評価項目	
学習状況の観察	(1) グループワーク等での対話への取組 (2) 発問に対する応答	
言語活動の観察	(2) 言語活動への参加状況 (4) 学びの関連付け、活用への取組	
課題などの提出状況	(5) リフレクションシートの内容 (6) 長期休業中の課題 (7) 日々の課題	
発表・報告	(8) ポートフォリオ (9) プレゼンテーション	
ペーパーテスト	(10) 定期テスト (11) 校内模試 (12) 小テスト	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	表現とは何か	- 自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の質を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにする。 - 視点を明確にして聞きながら、話の内容に対する共感を伝えたり、相手の思いや考えを引き出したりする工夫をして、自分の思いや考えを広めたり深めたりする。	(7) (9)
	分かりやすく説明しよう	自分の主張の合理性が伝わるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、相手の反論を想定して論理の展開を考えるなど、話の展開や構成を工夫する。	(7)
	身体で表現しよう	即興で演じる活動を通じて身体が表現することをよく意識し、スピーチや発表などの際に効果的に伝えられるよう、表現の仕方を改善する。	(9)
	「問い」を考えよう	相手の反応に応じて言葉を選んだり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の同意や共感が得られるように表現を工夫する。	(7)(8)
二 学 期	「自分」を表現しよう	話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分ける。	(7)(9)
	論理的な文章を書こう	- 目的や意図に応じて実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して伝えたいことを明確にする。 - 読み手の共感が得られるよう適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫する。	(7)(8) (8)
	話し合う力をつけよう	論点を明確にして自分の考えと比較しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を吟味して自分の考えを広げたり深めたりする。	(7)
	表現と読書活動	自分の思いや考えを伝える際の言語表現を豊かにする読書の意義とその効用について理解を深める。	(9)
三 学 期	情報活用力を身につけよう	- 正確な情報を見極め、その情報を目的に合わせて効果的な表現で発信する。 - 相手意識を持ち、相手にとって有用な内容や理解しやすい表現を吟味する。	(7) (9)
	説得力のある提案をしよう	プレゼンテーションで心を動かすのに必要な身体表現(発声・身振り)や態度などについて学び、説得力のある表現について理解する。	(9)
	表現を楽しもう	- 俳句、短歌、エッセー、物語など、いろいろなジャンルの作品創作を通じて、言葉を用いて表現することを楽しむ。 - 読み手に伝わるよう、表現を効果的に句風し、じぶんならではの作品を創作する。	(7)(8) (9)

備考 (1)(2)(3)(4)(5)(10)(11)(12)については、全ての単元において評価項目として用いる。